

流石になつかしさのつきぬかの互いの部室をゆきまきして更けてゆく夜を忘れた。

明けて翌朝十時過一行は四台の車に分乗して一路名古屋に向う。朝日新聞社八階ABCクラブにて昼食、伏見幹事ご自慢の指示、洋食にビールが加われば気分も軽くここでも歓談に花が咲く。午後二時一応閉会、再会を約して自由解散した。

神戸本部よりご援助を賜わり、且つ多数のご参加を得、東京支部よりも遠路ご臨席を頂き、更に花をそえられ感謝にたえずここに厚くお礼を申し上げます。(竹下記)

伏見俊助、西川一蔵、伊藤清子
尾形幸助、田中卓次、岡本志良
大幡久一、柳田義一、嵯峨崎亨
畑 薫、松岡俊一、小倉五郎
松下重男、西川政一、斉藤庸吉
竹下富士松、竹下みつゑ



高藤国吉山梶宮加松安石田斎	藤廣武岡川本藤井東田代藤	橋沢五政義増雪福竹俊一	八義郎夫	西青嶋小難新請宗芦瀬山溝	川木内川波村川原有一	正桃枝謙一乃	倫枝	鍋坂鈴海池宇助上瀬戸	島本丸野田土野野金又	久同丸哲同文野野治	喜寿衛好雄郎三治
同伴一名				同伴一名							

東京支部では、鈴木商店解散五十周年に因んでの記念行事として夏例会を兼ね「はとバス」により目に沁みる青葉やアジサイの咲き誇る「鎌倉古寺巡り」を選んで一日の清遊を試みることにした。とき 昭和五十二年七月五日(火)コース 明月院―建長寺―鎌倉宮―瑞泉寺―田谷の洞窟巡り

この日は、梅雨の最中とは云え天候に恵まれ汗ばむほどの暑さであつた。集合場所は東京駅丸の内南口、集合時刻は午前九時、東京からの参加者四十名、辰巳会の貸切りバスは定刻通り九時十分に出

発した。バスに同乗のガイドガールが終始マイクを握りしめて、行程や鎌倉の史実に就いての概説があり、又時折り鎌倉を詠んだ詩歌を可憐な美声で歌い喋り続けて、旅の情緒を盛りあげた。

史跡の町である鎌倉は到着の処に鎌倉文化の残照がありそしてこの小さな町が、嘗ては日本の政治、文化の中心地であり、ここで培われた文化が日本文化史上の一時期を画したことに新ためて気付くのである。

以下順次我々が辿ったコースに

就いてその概要を述べてみよう。明月院の門前で鈴木氏夫妻、坂本氏、鍋島氏と合流して総勢四十四名となり、うち揃って古寺巡りへと歩を向ける。

○ 明月院

明月院の一角は、北条時頼の館跡と云われ、入道した時頼が最明寺を開いた。時頼の死後廢寺となつたものを時宗が再興して禪興寺とし、後關東管領の足利氏満が引継ぎ、一時は關東十刹の第一位とまで云われた。明治時代に廢寺となり、塔頭の一つであつた明月院のみが残つた。寺宝には、上杉重房坐像、北条時頼坐像、明月院絵画等があり、又鎌倉井の一つ瓶の井もある。

同院は一頃すっかり荒れて、継木を買う資金もなく、何処にも捨てられてあつたアジサイを急場凌ぎに植えたものだと云う。それが今では名物となり、季節中は早朝から長蛇の列が絶える間もない程の人氣を集めている。参道は色とりどりの見事なアジサイで埋まり人呼んで紫陽花寺と謂い、倒れかけていた山門も新しくなり、又本堂紫雲殿も完成した。

○ 建長寺とその周辺

鎌倉五山の内三山であるのが山の内であり、それだけに鎌倉と

天井は全長の略七割が舟底形に掘られている。洞内は湿度が高く、要所には現在蛍光灯が設置されてあるが殆んど迷路に等しく、手燭のローソクの光りでは心もとない一抹の妖気を漂わせている。洞窟の中心部に五、六十人は集結できる高さ約三米位の八角形の洞穴があり、正面に観音像が祀られ、先導僧の誦經に合せて合掌念仏を唱え息災を祈願して怪奇あふれるこの洞窟を離れた。

バスは、東名高速を通り東京駅に到着、午後六時十分に解散した。都塵を避けこの日の由緒ある古寺巡りに心が洗われ爽やかな気分になり陶酔することができて真に有意義な企画であつたことに心から賛辞を呈する次第である。

(青木正倫記)

就いてその概要を述べてみよう。明月院の門前で鈴木氏夫妻、坂本氏、鍋島氏と合流して総勢四十四名となり、うち揃って古寺巡りへと歩を向ける。

○ 明月院

明月院の一角は、北条時頼の館跡と云われ、入道した時頼が最明寺を開いた。時頼の死後廢寺となつたものを時宗が再興して禪興寺とし、後關東管領の足利氏満が引継ぎ、一時は關東十刹の第一位とまで云われた。明治時代に廢寺となり、塔頭の一つであつた明月院のみが残つた。寺宝には、上杉重房坐像、北条時頼坐像、明月院絵画等があり、又鎌倉井の一つ瓶の井もある。

同院は一頃すっかり荒れて、継木を買う資金もなく、何処にも捨てられてあつたアジサイを急場凌ぎに植えたものだと云う。それが今では名物となり、季節中は早朝から長蛇の列が絶える間もない程の人氣を集めている。参道は色とりどりの見事なアジサイで埋まり人呼んで紫陽花寺と謂い、倒れかけていた山門も新しくなり、又本堂紫雲殿も完成した。

○ 建長寺とその周辺

鎌倉五山の内三山であるのが山の内であり、それだけに鎌倉と

喉を潤し重箱弁当に箸をつける。齊藤幹事の司会により、西川支部長の酒脱を挨拶と、司会者指名のもと長老鈴木氏を始め坂本氏、鍋島氏、瀬脇氏、宇土氏が次々に立つて夫々鈴木商店時代の懐古談が披露された。なお京都の大会に欠席された会員に五十周年記念メダルの贈与があり、終始和やかな楽しい一時を過ぎた。

帰京時刻を考慮、徒歩区域の広



辰巳会東京支部 50周年回顧例会 鎌倉建長寺 52-6-23

い瑞泉寺参観を割愛して午後一時半過ぎ再びバスで最終行程の鎌倉宮と田谷の洞窟の観賞に向つた。

○ 鎌倉宮とその周辺

覚園寺や瑞泉寺、鎌倉宮等がある地域を二階堂と云う。確かに二階堂と云う地名が持つ語感も、量感も、史都鎌倉を彷彿とさせる。覚園寺に仏像を訪ね、瑞泉寺に四季の花を求め、鎌倉宮や理智光寺跡に護良親王の哀史を辿るとい

のも二階堂の魅力であらう。鎌倉宮は明治二年、明治天皇の命で勸請された社で大塔宮護良親王を祀る。護良親王は後醍醐天皇の第一皇子で、元弘の変で河内吉野に拠つて北条軍と戦い、建武中興で征夷大將軍となつたが、足利尊氏に捕えられ社の背後にある土牢に幽閉され、後建

武二年足利直義により殺害された。土牢の中は二段となり、日中も日がささないという深さで外部からは窺い知るよしもない。宝物殿は公開され、社宝に木造護良親王乗馬像、親王筆蹟等があり、護良親王の墓は理智光寺跡にある。

静かな杉木立の境内を参道に沿つて行くと前方に急な石段があり、石の玉垣の中に苔むした石塔が立っている。鬱蒼と生い茂る老杉林の葉陰を通す涼風に打たれながら暫し悲運な生涯を閉じた親王の往時を偲んだ。

○ 田谷の洞窟

此処は、大船駅の北西二町、田谷町定泉寺境内の裏山にある洞窟で、寺僧の説によれば鎌倉時代の初期に修業僧が年月をかけ鑿と木槌で掘削していったもので、嘗て鶴岡二十五坊の修禪道場であつたと云う。

巨大な粘板岩を延長一、二町に亘り掘抜かれ、天然の洞や湧水を利用し、小さな滝や川、座禪場等が随所にあり、通気孔、排水孔もつけられている。又壁面に弘法大師、十八羅漢像、西国、坂東、秩父各札所の本尊、奉賛者の紋所、梵字等が半肉に彫り起され、その諸仏の数は参百体にも及ぶ。鑿跡が残る隧道は幅一米前後、

東京支部秋季例会

昭和五十二年十一月四日

① ネジメーカーのトープラ(株)工場見学と鶴巻温泉 光鶴園行

前日までの好天がこの日の朝雲行險悪小雨がばらつく。然かも集合場所が小田急線の大森野駅であつた為に会員の出足が大いに控かれた。参加者二十八名、駅前から会社のバス二台で工場に向う。

工場内は殊どオートメイション、大小さまざまなネジ、ネジ、ネジが流れて工程が進められる。皆頭はプラスに深く彫りこまれていくことに歓心を覚えた。この主原料は殆ど神鋼の硬鋼線材と真鍮線である。この製品の向け先きは自動車70パーセント、輸出と国内と云う割合だとか、わが国自動車工業の成長の蔭にある関連部分品の製作は実に大きな役割を果せることを知った。それに付いても昨今